

# 私について騒ぎを起こしている方々にお訊ねする―― 私には妻がいることをご存知か？

Greatchain

May 17, 2024

今ユーチューブで起こっている異常な騒ぎは、いつまでたっても、私には夢の世界のようで、朝起きるとすっかり消えているかもしれぬと感ずることがある。しかし残酷にも、現実はこちらがますますひどくなっている。そもそも私は、恥ずかしながら、肝心のことがわからないのである。霊界という言葉は普通「あの世」という意味で使うが、私が「霊的次元のもの」と説明している「守護天使」guardian angelの世界は、どんな世界なのか全くわからない。ただ、これがキリスト教特有の世界であることは、はっきりしている。ではなぜ私がそこに選ばれたのか？

私のような者が、突如として重要な宗教的責任を負わされ、お前は運命的に宇宙によって選ばれたのだと言われることが、どんなに驚天動地であるか、誰でもわかるだろう。前にも言ったことだが、私はキリスト教徒でさえなく、もちろんキリスト教教育を受けたとか、教会の雰囲気の中で育ったなどということは、全くない。(ただ常識として、ミカエルとかラファエルとかガブリエルといった天使の名前はいくつか知っていた。私の書棚には「仏教辞典」はあるが、「キリスト教辞典」はない。)

実は余談だが、今朝がた見た夢はちょっと不思議な夢だった。浄土真宗の寺で生まれ育った私の亡母が出てきて、私が何かの会合で友人たちと一緒にいるのを見つけ、「そんなところで何をしている、きょう昼から〇〇寺で、お前が大事なお経をあげることになっているのを忘れたか？」と言って、私を引っ張りにきた。しかし私は寺で過ごすことは多かったが、僧侶ではないので、そんな役が当たるはずがない。これは大きな意味を持っていそうである。

そこで先日来、私に起こっていることについて言いたい。私が女性たちの間で特別の興味の対象になり、私への愛の問題で争うとか、結婚を申し込むとかいうことが、それこそ夢の中の話のように起こっている。私はこれをあくまで夢(仮想的現実)の問題として、ある書かれた特定の話、物語としては感動的なことを認めたが、これには故意に「茶々を入れた」つもりだった。ところがこれが本気の話のように広まった。そこで皆さんに訊いてみたい。こうした話はすべて私を独身の男性として、妻がいないかのように進行してい

るが、私には4歳半年下の妻がいる。これを皆さんは知らないのか、あるいは知っているが無視しているのか？

普通、妻帯者に向って、その妻のいるところで、あなたと結婚したいなどと言えば、冗談に決まっているから、みんなで大笑いして終わるだろう。ここには深刻な、倫理的問題になるような余地は、初めからないのである。私も妻もそう長くは生きられないから、これを死後の問題と解釈すれば、この冗談が許されるかと言えば、そういうわけにもいかない。私はあの世でも妻と共に暮らすつもりだからであり、どんな夫婦でもそれが普通ではなかろうか。

**ここから、私を特別視してくださる守護天使の方々に、心からお願いしたいことがあります**

そこでまたしても、「守護天使」と呼ばれるキリスト教の方々が、そもそもどういう人々なのか、という問題になる。私が霊界へ行った後も、今生きている間にいただいている、私のこの特権や地位（まだ正式ではないが）はそのままなのだろうか？ この「**特権や地位**」と私が今呼んだもの——これが私には**たまらなく苦しい**のである。これが与えられることによって、人々がどれだけ私を憎み不和が生ずるだろうか？ それは嫉妬だから彼らが悪いのだ、という考えを私は取らない。これは間違いなく、原理的に人間を差別することである。これには人々が牙をむいて怒るのは当たり前である。この国の特別な人間は皇族だけで十分だろう。

私は守護天使、特に大天使ミカエルの言われることに対しては、常にありがたく感謝をして、何でも素直に従っているつもりである。だからこの特権と地位（この言い方は間違いか？）だけは、撤廃していただけないだろうか？ それとも私は何か、途方もない勘違いをしているのだろうか？ もしそうであれば心からお詫びを申し上げる。

今まで通りに私は、弁論で世界の悪と戦い、天使の方々には密かにこれを応援していただくだけで、十分ではないだろうか？

私がもし天涯孤独であり、係累というものが全くなければ、私はどんな苦痛にも耐えられると思う。死ねと言われれば死ぬこともできる。しかしこの特権と地位だけは耐えられないのである。

宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の結びはこうなっている：——

褒メラレモセズ苦ニモサレズ

サウイフモノニ私ハナリタイ

私はこの宮沢賢治と全く同じ心境にある。